

令和3年度 江戸川区立新堀小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	進んで考え 学び合う子 心ゆたかで 思いやりのある子 健康で たくまい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・子供が夢や希望の実現に向かって生き生きと活動する学校 ・最後までやり通し、自他を尊重し、何事にもチャレンジし、豊かな感性をもつ子供 ・子供に対しての情熱や向上心を持ち続け、組織の一員として協働する教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>育生の指導法を研究し、授業改善を図ることにより、教師が指導法の基礎を身に付け、体育授業の充実を図れた。 コロナ禍ではあったが、感染対策を行うことで、児童にとって必要なことを行うことができた。 <課題>しなやかでたくましい心と体の育成に向け、自分の気持ちや行動をコントロールする力が必要である。 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、問題解決型の授業を多く取り入れていくことが必要である。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策		
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・朝学習の実施。苦手項目による学年統一補習の実施。 ・連携プログラムに基づいて授業観察を行い、改善を図る。	・東京ベーシックドリル診断テストで全学年正答率10%UP。 ・小中連携を意識して授業づくりをした教師…90%以上	A	B	・1学期と2学期の比較では1学年以外正答率を上げることができた。 ・中学教員への授業公開はできなかったが、分科会で久しぶりに現在の状況と今後の課題を話した。	B	・朝学習を習慣化することで基礎学力を身に付けている。 ・苦手項目による補習学習は今後も続けてほしい。	・学期ごとの振り返りとともに次の取組をしっかりと実行することで成果をあげていく。	
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科への活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自分の考えをままと表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・資料の収集の仕方を年度当初に指導し、探究的な学習を目的とした授業を各学年で1回以上実施する。 ・図書館の蔵書の整理・分配比率を意識した本の選定、準備室の活用を実施する。	・全学年が資料集の仕方を教え、学校図書館にて探究的な学習の授業を実施。100% ・分配比率の向上(区の目標に近づける)	B	B	・研修会で学んだことを生かして全てのクラスで図書館での探究学習を行うことができた。 ・現在の配分に合わせて本の選定ができた。	B	・調べ学習の際に一人一人の探したい資料が適切に間に合っているのか。 ・読書離れを耳にするなか、活字に親しむ姿勢が良い。 ・図書館を活用できてよい。	・各学年の教科と連携させることで、読書を通じた探究的な学習をさらに充実させる。	
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・校内研究を体育で実施。 ・中休みの校庭遊びの励行。	運動を好きな児童80%以上。 中休みの校庭遊び90%以上	B	A	・体育授業の取組を休み時間に実施している。なわとび大会はマラソン大会に向け、練習に取り組めた。外遊びはほぼ達成している。	A	・コロナ禍でやれることが制限された中、なわとびなど継続できていた。子供たちが楽しく運動していた。	・コロナ禍であり実施できなかった運動遊びを充実させる。	
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組。「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	・職員室前に資料設置。 ・障害理解やボランティアに関する授業を実施。	障害者理解やボランティア精神等の大切さを感じた児童80%以上	A	B	・手話ダンス、補助犬体験等を通して障害者理解の機会となった。周年で区取組を手話で披露した。	A	・差別や偏見をなくすため良い取組である。相手を思いやる精神を育ててほしい。	・障害者理解やボランティア精神の向上を継続させる。	
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・研修の実施。教員同士による授業観察の実施。	外国語(活動)が楽しいと感じる児童80%以上	B	B	・交換授業により、担任が行う外国語教育を学ぶことができた。	B	・外国語に触れられる日常をつくれるようにしてほしい。	・高学年の指導者を固定して行う。	
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ、不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・自他を尊重する意識と態度を模する(道徳や特別活動等) ・4, 5, 6年生による「心の体操」の実施。 ・必要に応じて関係機関を積極的に活用する。	・不登校傾向のある児童のうち半数が改善された。 いじめの解消100% ・事後アンケートで事前アンケートから数値が上がった児童80%以上。 ・他機関との連携の実施	B	B	・エール週間、ふれ合い月間等取組を通して相手の思いの大切さを定期的に指導した。 ・4, 5, 6年の「心の体操」が多くの児童に定着し、気持ちの安定に繋がることができた。 ・関係機関を積極的に活用して不登校改善やいじめ防止に努めた。	B	・エール週間や心の体操は良い取組である。 ・花植え活動で子供と関わったが、素直さを感じた。 ・いじめがなくなるよう引き続き、子供たちの小さな変化を見逃さないでほしい。	・相手の思いの心の育成や気持ちを安定させる活動を継続する。 いじめ対策委員会を充実させ、いじめの早期発見、解決につなげる。	
	知識・技能を習得し、活用する能力の育成	問題解決的な学習を取り入れ、自己学習力の定着を図る	問題提示の工夫、解決の見出し、振り返りの実施	児童の自己学習力が向上したと感じる教員60%以上	B	B	・学習内容の定着を優先させると教師主導型の授業が多くなった。	B	・学習内容の定着は家庭環境も大きい要素ではないか。	・OJTを充実させ、授業方向性につなげる。	
	特別支援教育の充実	特別支援教育の推進 ・校内委員会の活性化を図ることによる指導・支援の充実 ・エンバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・校内委員会月1回以上実施。年3回特別支援研修会実施。 ・校内委員会で必要児童への個に応じた対応を決定。 ・担当によるエンカレッジルーム活用。 ・副籍交流の実施。	・校内委員会による支援や研修が有効と感じる教員90%以上。 ・個に応じた対応やエンカレッジルームの使用が有効であると感じる教員90%以上。 ・参加児童が楽しかったと思える交流の実施。	B	B	・年3回の研修会は教員にとって有意義なものであった。 ・校内委員会は定期的に実施し、学校全体での支援体制を整えることができた。 ・エンカレッジルームの担当をはっきりさせ、活用しきれいていない。 ・交流は実施できず。	B	・教室外に出てしまう児童が多くなったように感じる。出てしまった理由を精査し、個に合った指導を全体で共有しながら支援体制を整えてほしい。	・特別支援委員会を特別委員会から定期的な校務分掌に取り入れることで支援体制の充実を図る。 ・エンカレッジルーム担当者の対応研修を行い充実させる。	
	教員の資質向上	教員研修の充実 日常的なOJTの充実 校内研究の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修 ・ミニ研修会を活用し、誰もが教える側と教えられる側を体験する研修の実現による教師力の向上 ・運動の楽しさや喜びを味わい3つの資質・能力を育む	・ランズ支援を活用してタブレット授業の実施。 ・ミニ研修会1回以上実施。 ・教員間による授業観察実施。 ・研究授業年6回実施。 ・学年による授業研究6回実施	・タブレットを有効に使えたという児童90%以上。 研修したことを自己の職務に生かされたと感じる教員90%以上。 ・体育授業が改善できたと感じる教員100%。	B	B	A	A	・低学年児童がタブレットの使用方法を理解できていないのでは ・今後研修を通して指導力の向上を図ってほしい。 ・熱心な取組で成果が出ているように感じた。	・情報部を中心にタブレット研修を充実させる。 ・ミニ研修会だけでなく、自主的な授業観察を充実させる。 ・区教育課、都体育部にて体研の実施を行う。
	特色ある教育の展開	ゲストティーチャーを活用した本物の体験 美しいものに感動する豊かな感性の育成。	・ゲストティーチャーを活用した授業の充実 ・本物を直に感じることで児童の健全育成 ・自主性に任せた様々な詩の暗唱の実施により、言葉の感性を高めるとともに意欲の向上を図る。	・全学年がゲストティーチャーを招いて本物の授業を体験する。 ・学校長による詩の暗唱(学期1回実施)。	・本物の素晴らしさを実感できた児童(感想による)90%以上。 合格児童100%。	B	A	A	A	・ゲストティーチャーの授業で視野を広げられている。 ・学校長の詩の暗唱は素晴らしい。 ・今後も全児童合格目指して継続する。	・今後も積極的にゲストティーチャーを活用する。 ・今後も全児童合格目指して継続する。
基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣と学習規律の確立 家庭学習習慣の確立	・学校全体で共通したルールで指導に当たること、基本的な生活習慣や学習規律を確立する ・家庭学習習慣の向上。	・基本的な生活習慣や学習規律の向上が図れた学級100% ・家庭学習キャンペーンの実施(学期1回)	・全校で課題をしぼって取り組み、継続することで少しずつ効果が出てきた。 ・保護者への啓発を積極的に引き行い、数値をあげることができた。	B	B	B	B	・常に振り返りを行い、課題を明確にして全体で指導にあたる。 ・保護者への啓発を引き続き行うことで成果をあげてほしい。 ・保護者会で結果をもとに話し合い、家庭学習の習慣化を図る。	・家庭で生活リズムを作ることの大切さを感じる。	